

# Economic Indicators

発表日:2019年10月8日(火)

## 国際収支(2019年8月)

～貿易・サービス収支の改善により、経常収支(季節調整値)は黒字幅を拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
副主任エコノミスト 小池 理人(Tel:03-5221-4573)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2018	8月	18,237	14,858	▲ 786	▲ 375	▲ 411	17,606
	9月	18,437	14,542	▲ 1,920	▲ 1,404	▲ 516	17,879
	10月	13,163	13,861	▲ 2,071	▲ 1,642	▲ 430	17,752
	11月	8,211	14,246	▲ 1,624	▲ 1,158	▲ 466	17,183
	12月	4,644	14,882	2,243	1,887	356	14,032
2019	1月	5,743	17,030	▲ 354	477	▲ 831	18,837
	2月	25,928	17,918	1,678	2,014	▲ 336	16,569
	3月	27,871	12,101	▲ 1,161	▲ 1,096	▲ 65	14,099
	4月	16,626	15,715	▲ 1,135	▲ 1,128	▲ 7	16,935
	5月	16,501	13,616	▲ 4,720	▲ 4,573	▲ 147	19,043
	6月	12,549	19,865	3,120	1,653	1,467	18,735
	7月	19,999	16,470	▲ 1,072	376	▲ 1,448	18,440
	8月	21,577	17,203	289	520	▲ 231	18,391

(出所)財務省「国際収支統計」

### ○経常収支(季調値)は貿易・サービス収支の改善を主因に黒字幅拡大

8月の経常収支(原数値)は21,577億円の黒字(コンセンサス:21,081億円の黒字、レンジ:18,648~23,265億円)とコンセンサスをやや上回る結果となった。季節調整値では17,203億円の黒字となり、前月(7月:16,470億円の黒字)から黒字幅が拡大した。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、第一次所得収支が前月からほぼ横ばいで推移する中で、サービス収支の赤字幅縮小と貿易収支の黒字幅拡大が、経常収支改善の要因となった。もっとも、サービス収支の改善は、先月収支が悪化したその他業務サービスの収支が戻ったことによるものであり、貿易収支については原油価格の下落による輸入減少の影響が大きい。そのため、今月の貿易・サービス収支の改善は一時的な要因による所が大きく、所得収支が経常収支を支えているという構図に変化は無いとみて良いだろう。

### ○その他サービス収支の赤字幅縮小を主因として、サービス収支(季調値)は赤字幅が縮小

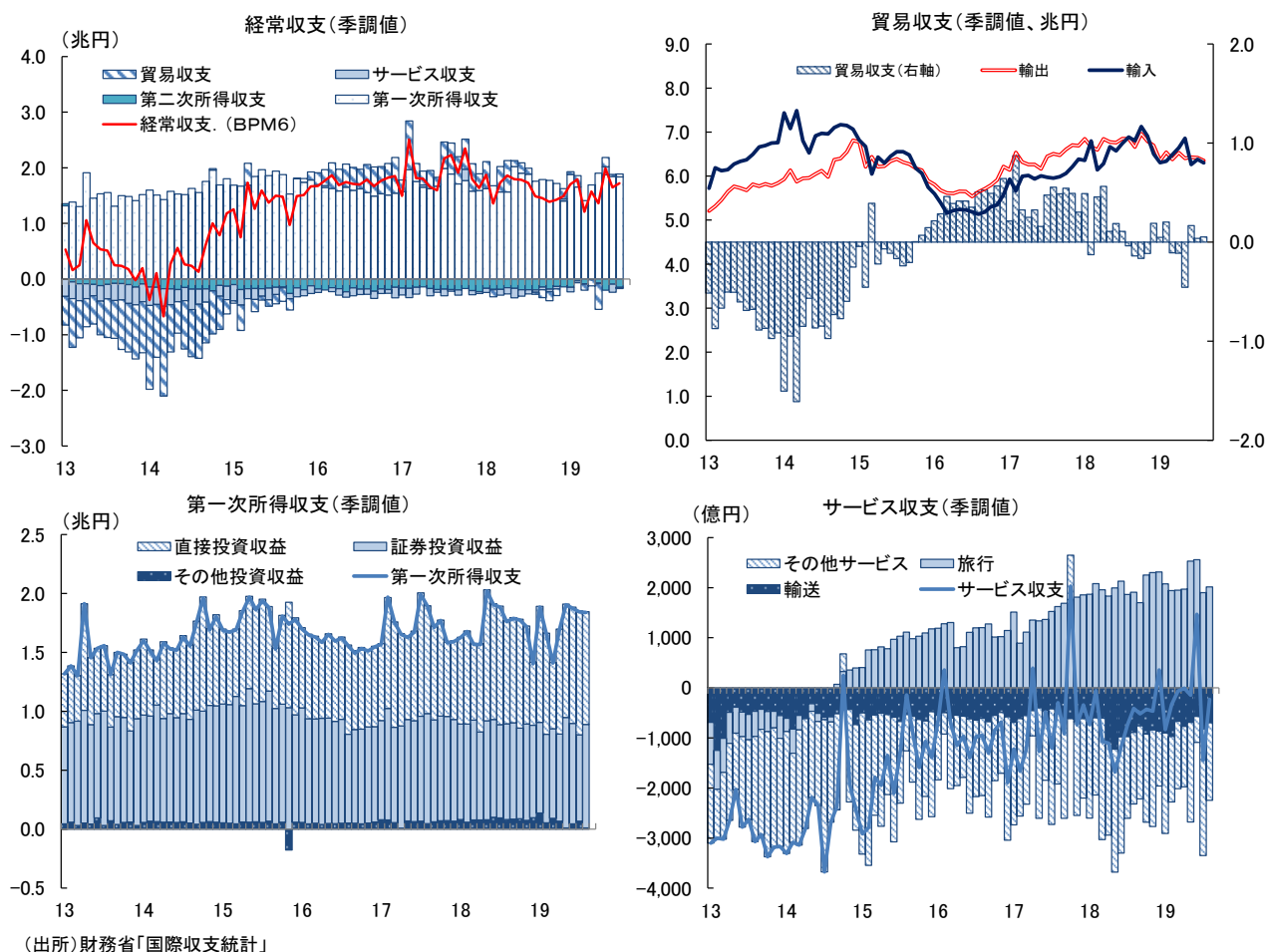
8月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は18,391億円の黒字と前月(7月:18,440億円の黒字)と、ほぼ横ばいで推移となった。直接投資収益及び証券投資収益の受取金額は、為替が円高方向に推移する中でも増加を続けており、引き続き経常収支の下支え要因となっている。

サービス収支は、赤字幅が縮小(7月:1,448億円の赤字→8月:231億円の赤字)した。先月赤字幅を拡大した技術・貿易関連・その他業務サービスや専門・経営コンサルティングサービスといった、その他サービス収支の赤字幅が水準を戻した(7月:2,529億円の赤字→8月:1,550億円の赤字)こ

とが主な要因である。

## ○経常収支は横ばい、ないしはやや黒字幅を縮小していく見込み

経常収支の先行きをみると、所得収支については、直接投資や証券投資を牽引役として、引き続き堅調な推移が続くだろう。一方で、貿易収支については、弱い動きが続く可能性が高いとみている。8月の鉱工業生産在庫指数（電子部品・デバイス工業）が低下（7月：76.0→8月：72.7）し、10月の日銀短観で電気機械が上向く（7月：+2→10月+5）など、I T関連財に底入れの兆しがみられており、一部明るい動きがみられる。しかし、米中貿易摩擦は依然として着地点の見えない状況が続いており、世界経済に影を落としている。ISM製造業景況指数が47.8と2009年6月以来の水準に落ち込むなど、米国経済の減速感が強まっていることに加え、中国経済も製造業PMIが5ヶ月連続で50を下回り<sup>1</sup>、弱い動きが続いている。海外経済の減速感が強まっていることから、今後輸出が大きく改善するシナリオは描きにくく、貿易収支が経常収支の牽引役となる可能性は低いだろう。今後も経常収支は、貿易収支の弱い動きを所得収支が下支えする形で、横ばいないしは黒字幅をやや縮小していくと予想する。



<sup>1</sup> 英調査会社の HIS Markit 社が発表した9月の財新製造業PMIは51.4となり、好不況の分かれ目となる50を2ヶ月連続で上回ったが、新規輸出受注が4ヶ月連続で減少するなど外需は依然として弱く、中国経済が底打ちしたと判断することは難しい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。